



【報リハとは？】

2019年9月に利用者さんにご協力いただいたアンケートを元に、西部総合病院訪問リハビリテーション通信～みんなで造る広報誌～『報リハ』の作成を始めました。

日々利用者さんやそのご家族が取り組んでいる事、興味がある事、悩んでいる事、リハビリに求めている事などを何でも、みんなで共有することで、在宅生活をより『明るく』『楽しく』送れるように多くの『できた!!』が集まるように盛り上げていければと思います。

【できた！！報告会】

～ インタビュー ～ No.1



車椅子での家族旅 ～目標の写真撮影～

70歳代男性。右手が麻痺して使えない、歩きは装具をつけて杖を使えば何とか歩ける。病気になる前に良い写真を撮ろうと思って高いカメラを買った。リハビリの方からカメラをやりましようと言われ、一緒に向き合ってもらって、またやろうと思った。是非一度富士山の写真撮りたいと思った。また一流に戻ろうと思っている。出来なくても努力して徐々に戻ろうと思ってる。デイサービスの方々とも楽しく過ごすことも原動力になっている。

【こんなことがしてみたい！】

- 右手で食事が出来るようになりたい
- 電車バスに乗ってボートレースに行く
- 運動（ジムに通う）
- 音楽（ギター／ベースを弾こうかなと）
- 転倒しない様にする。

⇒ 今後は「できた！！」を目指して！

【気になるニュース】

- 突風での雨被害
- ラグビーワールドカップ
- 乳幼児の虐待が増えた
- 大関まで昇進した力士が、けがや病気で序二段まで陥落したにも関わらず、懸命のリハビリやトレーニングによって徐々に上位に返り咲いた姿を見ることができ嬉しかった。



【今後のテーマ】

「できた！！」のインタビュー、日々取り組んでいる事、家族の支援の工夫・困りごと等何でも募集

リハビリ会議を担当している医師のコメント

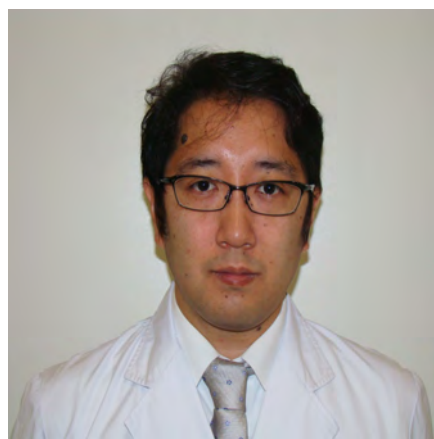
【大友医師からのコメント】



神経内科の門を叩いて 21 年、これまでに救急病院で脳卒中の急性期や慢性期病院で神経難病や筋ジストロフィーなど、様々なケースを担当しました。リハビリテーションは神経疾患と切っても切れず、と言うよりも二人三脚の関係をいつも求められますね。神経内科の教授が晩年にリハビリテーション学の教授に就任することも珍しくありません。当院は専門医が不在なものの、多数のセラピストの方々を擁し、充実した環境でリハビリを行えていると思います。

神経内科医師 大友学

【関山医師からのコメント】



報リハ発行おめでとうございます。訪問リハビリ会議にて患者様の御自宅に伺わせていただいている関山です。リハビリ会議が始まって 1 年半が経ちました。多い患者様で 6 回ほど訪問させていただきましたが、1 人 1 人の患者様・ご家族様にそれぞれの悩みがあり、ご苦労もあることを痛感しております。リハビリを通じて、皆様の『苦労』と『悩み』が生活の『楽しみ』と『幸せ』へと変わるよう訪問リハビリチームならびに医師の我々もより一層の努力させていただきますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

内科医師 関山 達彦

【できた！！報告会】

～インタビュー～ No.0

訪問リハビリ卒業者さまからのコメント

～報リハ第一号に寄せて～

おめでとうございます。念願の絆新聞発刊が出来たこと、嬉しく思います。私とリハビリの先生方との素敵なご縁は私が化膿性脊椎炎と言う病気になり東京の病院で手術を受けてリハビリ専門の西部病院に転院した事から始まりました。まずは院内のリハビリを 2 ヶ月受けた後退院。その後訪問リハビリをお願い致しました。色々な先生のご指導の元。後遺症で歩けなかった私が今は歩いて最低限の自分の事が出来る様になりました。

自分らしく…らしく…と

私らしく生きる事に心を寄せて頂きました。私のたくさんの涙と笑顔が思い浮かびます。優秀な先生方が患者さんの気持ちに寄り添ったリハビリをしたいと言う大きな目標と志を持ちリハビリに取り組む姿勢は患者私にとっても大きな刺激と励みになりました。患者さんと絆を繋げて行けるリハビリの取り組みがこれから先も実を結びます様に祈っております。私もその絆と繋がるリハビリに助けられて今の私があります。先生方ありがとうございました。

また志の元に頑張りたいと思っています。



一緒に検討した自主訓練

西部病院リハビリ卒業者より 令和元年 10 月 17 日 寄稿